

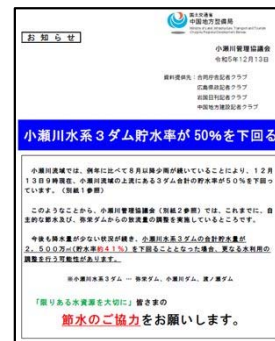
- 小瀬川流域は、令和5年8月～令和6年1月にかけて少雨傾向であり、その流域平均雨量は平年の4割程度と渇水状況となりました。
- 「小瀬川管理協議会渇水対応タイムライン\*」運用後初の大きな渇水となりましたが、事前に関係者間で危機感共有が図れ、混乱すること無く計画的な渇水調整を行いました。
- 渇水調整は小瀬川水系にある3ダム（弥栄ダム・小瀬川ダム・渡ノ瀬ダム）の貯水量を計画的に確保するため、市民への節水呼びかけや、関係利水者の協力のもと早期の自主節水、一次取水制限を実施。市民生活や企業活動へ影響の発生する取水制限強化には至りませんでした。
- 弥栄ダムにおいては、下流防鹿（ぼうろく）地点において上水道、工業用水等に最低限必要な水量を約3ヶ月間補給しつづけ、水道の断水や工場の稼働停止等を生じさせることなく、安定した市民生活や企業活動の維持、河川環境の保全を行いました。

※小瀬川管理協議会渇水対応タイムラインとは、渇水被害を最小限にとどめるため「弥栄ダム・小瀬川ダム・渡ノ瀬ダムの貯水率」に応じて想定される対策、行動を示したものです。

## ■下流河川の状況（大竹市大和地先）



## ■WEBで節水呼びかけ



## ■小瀬川管理協議会の開催

